

2021年1月新着情報



海外／国際機関で行われている／行われた興味深いイベント／ 取り組み

- WHO: The Decade of Healthy Ageing(ヘルシーエイジングの10年)2021-2030の発表(12/14)
 - <https://www.who.int/news/item/14-12-2020-decade-of-healthy-ageing-a-new-un-wide-initiative>
 - <https://www.who.int/initiatives/decade-of-healthy-ageing> (The Decade of Healthy Ageing 公式サイト)
 - 国連総会は12月14日、2021-2030年を「Decade of Healthy Ageing」(ヘルシーエイジングの10年)と発表した。この10年で様々な取り組みを行うことを目指しており、その中には「年齢やエイジングに対する考え方や行動を変える」、「高齢者の社会参加や貢献を促進する」、「個々のニーズに対応した統合ケアやプライマリヘルスサービスを提供する」、「介護を必要とする高齢者がケアにアクセスできるようにする」といった内容が含まれる。この国連決議では、加速化する人口高齢化に対して世界が準備しきれていない点について、懸念を示している。人口高齢化は、医療システムだけでなく労働、経済、商品やサービスの需要など様々な社会的側面に影響を及ぼすものであり、したがって社会全体としてのアプローチが求められる。この決議ではまた、WHO が他の国連機関と連携して今後10年の取り組みを主導するよう呼び掛けており、政府、国際・地域機関、市民社会、民間セクター、学術界およびメディアに対しても、この取り組みを積極的に支援するよう促している。



ILC-Japan または ILC-GA メンバーが関わった／関わっている イベント／取り組み

- UK: ILC バーチャル政策イベント:職場におけるエイジズムと障害者差別の重複:労働衛生と研修に向けた知見 (2021年1月28日(木)現地時間午後2時~4時15分)
 - <https://ilcuk.org.uk/ilc-virtual-policy-event-the-overlap-between-ageism-and-ableism-in-the-workplace-insights-for-occupational-health-and-training/> (このページから参加申し込みも可能)
 - 人口高齢化に伴い、就労生活の延長を促進する政策が打ち出されてきた。しかし職場内で見られる年齢に基づくステレオタイプや差別によって、高齢期の就労が妨げられているほか、ある調査では、高齢者自身による加齢への考え方が自身の退職や就労に影響を及ぼすことが示唆されている。また加齢の意味は、主に衰退や障害というコンセプトで解釈されている。エイジズムと障害者差別は別個で調査されることが多いが、今回の研究ではこのギャップに着目し、以下の点について重点的に取り組んだ。
 - ◇ エイジズムと障害者差別のつながりおよび、エイジズムが実際には障害者差別である度合い
 - ◇ 高齢者就労における健康管理で、労働衛生が果たせる役割

◇ 内面的なエイジズムが研修や職業訓練にもたらす影響

このバーチャル政策イベントでは、この度の研究結果について詳細を発表するとともに、これらの結果に基づいて労働衛生や研修についても考察する。



海外での興味深い取り組み・ニュース

- **英国ほか:認知症の父との親子関係を描くヴィゴ・モーテンセン初監督作品映画「Falling」(12月)**
 - <https://www.alzheimer-europe.org/News/Dementia-in-society/Friday-04-December-2020-Viggo-Mortensen-s-directorial-debut-Falling-explores-a-difficult-father-son-relationship-worsening-as-dementia-progresses>
 - [https://en.wikipedia.org/wiki/Falling_\(2020_film\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Falling_(2020_film))
 - 俳優のヴィゴ・モーテンセン(「ロードオブザリング」や「グリーンブック」などに出演)による初監督映画「Falling」が2020年12月4日に英国で公開され、2021年2月には米国およびカナダで公開予定となっている。同氏は主演も務め、中年のゲイ男性を演じており、保守的で同性愛者を嫌う父親の認知症が進む過程での家族の葛藤が描かれている。モーテンセン氏自身の父親も認知症だったが、この映画は自身の父を描いたものではない、と同氏は語る。しかし同氏はこの病気について、当事者と家族の両面から経験を率直に描こうと取り組んだ。「このテーマを取り上げる映画の多くでは、混乱している人が描かれています。でも私の経験では、そんなことはありません。それは、混乱している人を見ている人間の立場からの経験です。記憶というのは主観的なものです。その人の『今』が自分にとっての『今』より妥当性に欠けるとなぜ言えるのでしょうか？30年前に亡くなった人と朝食を食べた、と父親が言っているのなら、『その人はとっくに死んだよ』と言うのではなく、『何を食べたの?』と言いましょ。倫理的に、自分は嘘をついていると思うのですが、その人が気持ちよくなれることをしているのです。自分ではなく、その人にとって大切な事なのです。」
- **英国:高齢期のネガティブなイメージを打ち破るエイジ・ポジティブ画像ライブラリーを立ち上げ(1/7)**
 - <https://www.ageing-better.org.uk/news/age-positive-image-library-launched>
 - <https://ageingbetter.resourcespace.com/pages/search.php> (ライブラリーHP)
 - <https://www.ageing-better.org.uk/sites/default/files/2021-01/Age-positive-image-library.pdf> (利用ガイド)
 - The Centre for Ageing Better では、高齢期に対するネガティブなイメージに立ち向かい「ポジティブでリアルな」高齢者のイメージを紹介する、初の無料画像ライブラリーを立ち上げた。よく使われるような「しわだらけの手」や「杖」に代わって、ここではエイジングや高齢期をリアルに描く画像を提供している。現在すでに400以上の画像が掲載されており、定期的に更新予定となっているが、これらはフリー素材として使用可能である。また上記ページからは、利用ガイドもダウンロード可能。
- **英国:ケアワーカーを対象としたリエイブルメントのeラーニングプログラム(1/7)**
 - <https://www.scie.org.uk/e-learning/reablement-care-workers> (受講は無料ですが、登録する必要があります。)
 - リエイブルメントとは、病気やけがの後で人々が能力を取り戻し、自分のことを自分で出来るよう支

援することである。これは、人々が出来るだけ長く自立し続けられるようにすることを目指す、政府による予防アジェンダの重要な要素である。リエイブルメントは従来の在宅ケアと異なるため、サービスを提供する際、スタッフには異なる考え方と行動が求められる。このeラーニングプログラムでは、リエイブルメントとは何か、従来のケアとどのように異なるのか、サービスの提供方法などを学ぶことができる。

- ◇ コース内容:リエイブルメントの紹介、リエイブルメントとケア法、リエイブルメントの役割とメリット、コミュニケーションと協働、支援の種類、支援計画の作成、サービス終了の準備
- ◇ 学習成果:リエイブルメントの理解、リエイブルメントサービスの主要知識習得、従来の在宅ケアとの違いに関する理解、日常業務における自信向上。

● **アイルランド:Irish Health Survey 2019 – Carers and Social Supports(アイルランド健康調査 2019:ケアラーと社会的支援)(12/7)**

- <https://www.cso.ie/en/releasesandpublications/ep/p-ihsc/irishhealthsurvey2019-carersandsocialsupports/>
- アイルランド統計局による 2019 年の健康調査の一環として、ケアラー(属性、介護時間など)および社会的支援(近隣からの支援など)に関する情報がまとめられた。この発表ではまた、65 歳以上の人たちのセルフケアや家事での困難度合いに関する情報もまとめられている。調査対象者は 15 歳以上で、データはコロナパンデミック以前の 2019 年 7 月から 2020 年 2 月に収集されたものである。主な結果は以下の通り。
 - ◇ 8 割は、何か問題が発生した際に頼れる人が 3 人以上いると回答。
 - ◇ 3/4 は、近所の人から助けをもらうのが「簡単」または「とても簡単」と回答。
 - ◇ 1/8 近くは、ケアの提供者。
 - ◇ ケアラーの割合は、男性(11%)より女性(14%)の方が高い。
 - ◇ うつ症状がある人の割合は、ケアラー(19%)の方がそうでない人(13%)より高い。
 - ◇ 65 歳以上の 4 割は、重労働の家事を行うのに何らかの困難を感じている。
 - ◇ 65 歳以上の 9 割は、服薬管理に問題なし。

● **【コロナ関連】オランダ:コロナ危機が認知症の在宅介護者に及ぼす影響(12/18)**

- <https://www.alzheimer-europe.org/News/COVID-19-situation/Friday-18-December-2020-Alzheimer-Nederland-examines-impact-of-corona-crisis-on-home-carers-of-people-with-dementia>
- Alzheimer Nederland では 2 年に 1 度、認知症の人の在宅介護者を対象に調査を行っている。7 回目となる直近の調査では、3,577 人が回答した。今回の調査では 72%のパートナー介護者で、コロナ危機以降に負担感が増していた。親を介護する回答者では、64%がコロナによる影響の増大を感じていた。このような変化の主な理由は、フォーマルおよびインフォーマルな支援の減少であった。しかし一方で、近隣から支援を得ている人の 27%では、コロナ危機以降、隣人から受ける支援が増えたと回答していた。また、身近な人たちが介護者の状況を理解してくれていると回答した人の割合も、2018 年は 76%だったが今回は 80%へと増加したほか、自分たちが依頼しなくても身近な人たちが助けてくれたと回答した人の割合も、この 2 年間で 29%から 35%に増加した。

● **米国:米国の人口はこの 10 年で増加・高齢化・多様化 (12/15)**

- https://www.pewtrusts.org/en/research-and-analysis/blogs/stateline/2020/12/15/us-population-grew-larger-older-more-diverse-in-past-decade?utm_campaign=KHN%3A%20First%20Edition&utm_medium=email&hsmi=103211666&hsenc=p2ANqtz-_7LmrUJLksOhC5i9M8Wp97SSmbPOnA60ALEHI9-2D_I-Nr7MhoY7Vst6tUtuKnoIBBT2nFYhM7ULYn0ZY8cL_vuQErgA&utm_content=103211666&utm_source=hs_email
 - <https://www.census.gov/newsroom/press-releases/2020/2020-demographic-analysis-estimates.html>
 - 12月15日に統計局が発表した2020年の米国人口データによると、2020年4月現在の人口は約3億3,260万であり、2010年より7.7%増加した。また高齢化や多様化の傾向も見られた。中央年齢は、この10年で37.2から38.5に上昇した。4月1日現在のデータであることから、コロナパンデミックの影響はほとんど反映されていない。
- **【コロナ関連】米国：コロナワクチン接種予約でイベント管理アプリを通じた詐欺続出(1/5)**
 - <https://www.forbes.com/sites/siladityaray/2021/01/05/florida-seniors-duped-into-paying-for-covid-vaccination-appointments-on-eventbrite/?sh=5c10c4784933>
 - <https://thehill.com/homenews/state-watch/532682-eventbrite-sites-targeting-florida-seniors-charged-for-fake-vaccination>
 - <https://bun-ten.hatenablog.com/entry/2021/01/05/164435>（ワクチン接種のEventbrite利用に関する日本語の説明）
 - 米国では徐々に一般市民もコロナワクチンを接種できるようになり、フロリダ州の多くの郡では接種の予約管理で、保健部門がイベント管理アプリ Eventbrite を使用している。しかし、保健部門を装って高齢者に課金し、接種予約を完了したと思わせる詐欺が複数の郡で発生している。被害にあった高齢者たちが実際に接種会場に訪れると予約が入っておらず、詐欺であることが分かった。被害が発生している地域の保健部門ではツイッターで、「登録は無料であり、課金はされない」旨を通知している。またオンラインツールを予約に用いることで、ネットにアクセスできない人たちが排除されるのではないかと、という懸念も示されている。
- **ミャンマー：ミャンマーにおける急速な高齢化に向けた政策の手引きとなる新たなエビデンスを構築**
 - https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/news/JAGES_Myanmar（日本語の紹介文）
 - ミャンマーの高齢者を対象とした初の縦断コホート研究の初期調査の結果が医学ジャーナルBMJ Open に掲載され、同国が今後急速な高齢化に対応していく際に必要な、実証に基づく政策を立案するためのベースライン・データが示された。ミャンマーの人口は、2030年までに約13%が60歳以上になると予測されている。東南アジアの多くの国々でも同様に急速な高齢化が起きているが、効果的な医療制度や介護制度はまだ確立されていない。本研究は、日本老年学的評価研究（JAGES）にならって実施された。JAGESの調査票が国外で適用されるのは本研究が初となる。ベースライン調査の結果では、農村部在住高齢者の方が社会経済的地位が低く、体調不良を訴えた割合が高かった一方で、都市部在住高齢者は社会的交流が比較的少なく、BMIが高いものの、日常生活動作能力は高スコアを示した。両地域とも身体機能および認知機能は、同年代の男性と比較して女性の方に衰えが見られた。2021年に追跡調査を実施し、死亡率、モビリティの変化、その他の身体的・精神的疾患の発症に関するデータを収集予定。

- **【コロナ関連】オーストラリア:高齢者ケア部門におけるコロナのグリーフ・トラウマ支援(12/10)**
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/grief-and-trauma-support-for-those-impacted-by-covid-19-in-the-aged-care-sector-english>
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/grief-and-trauma-support-for-those-impacted-by-covid-19-in-the-aged-care-sector-japanese> (日本語版)
 - オーストラリア政府は、高齢者ケア部門でのグリーフ、喪失、トラウマに関する支援提供に向けた資金を提供している。対象となるのは、高齢者ケア施設の入居者、在宅ケア受給者、その家族や介護職員で、誰でも無料で利用できる。電話カウンセリングや認知症に特化したサービス、アドボカシーサービスなどが含まれる。サービス提供団体はすべて、対象者の文化や宗教などを尊重し、また翻訳や通訳サービスも提供される。

- **ニュージーランド:高齢者に関する主な統計情報をまとめて紹介(12/17)**
 - <https://www.superseniors.ms.govt.nz/news-events/news/2020/key-statistics-summary-documents.html>
 - ニュージーランド政府が運営する高齢者向けウェブサイト SuperSeniors では、高齢者に関する主な統計情報をインフォグラフィックスで紹介する資料を作成した。上記ウェブサイトから、いくつかの主要分野(人口、健康、サービス、住宅、社会参加、経済など)について資料をダウンロード可能。



海外／国際機関で最近発表された法律・規則・提言など

- **【コロナ関連】英国:ケアホームでのコロナ検査強化支援に1億4,900万ポンド拠出(12/23)**
 - (ア) <https://www.gov.uk/government/news/149-million-to-support-increased-care-home-testing>
 - (イ) 警戒レベルに関わらず全国のケアホームを対象に、1億4,900万ポンドの助成金が提供される。これによりケアホーム職員は、従来の週1回のPCR検査に加えて、週に2回Rapid test(迅速検査)を受けられるようになる。この助成金はまた、警戒レベル1~3のケアホームが家族・友人の面会や訪問を支援するために必要な追加コストを支援するものでもある。警戒レベル4のケアホームで陽性者が出た場合、職員はさらに7日間、毎日検査を受けることとなる。

- **オランダ:オランダ政府が新たな全国認知症計画2021-2030を発表(12/1)**
 - <https://www.alzheimer-europe.org/News/Policy-watch/Tuesday-01-December-2020-Netherlands-publishes-newnational-dementia-strategy2021-2030>
 - <https://www.government.nl/documents/publications/2020/11/30/national-dementia-strategy-2021-2030?x> (英語版全文)
 - オランダ政府は新たな全国認知症計画2021-2030を発表し、同国の認知症政策に関する今後の優先事項をまとめた。この戦略では以下3点に重点を置いている。
 - ◇ 認知症のない世界: 認知症研究
 - ◇ 認知症の人の尊重: スティグマや差別減少に向けて
 - ◇ 個々に合った認知症支援: 支援やサービスの改善

上記の各セクションでは、課題の分析や対策の目的や方法についてまとめている。また上記の3テ

一に加え、この計画が成功するために欠かせない以下 4 つの領域についてもまとめている。

- ◇ イノベーション:テクノロジーなどの開発
- ◇ 若年性認知症:特有のニーズ
- ◇ 国際:認知症研究での連携
- ◇ コミュニケーション:計画での取り組みから得られた知識や経験の共有

● **ノルウェー:ノルウェー政府が新たな認知症計画 2025 を発表(12/2)**

➤ <https://www.alzheimer-europe.org/News/Policy-watch/Wednesday-02-December-2020-Norway-publishes-new-Dementia-Plan-2025>

➤ ノルウェー政府は、新たな認知症計画 2025 を発表した。これは 2025 年までの認知症政策での国のアプローチをまとめたもので、高評価を受けた前計画(2020 年まで)を基にして作成された。この計画では、以下 3 点の主な目標を掲げている。

- ◇ 認知症の人とその家族がタイムリーに診断を受け、良質で個別化されたサービスを受けること。
- ◇ 認知症の人とその家族が、認知症フレンドリーな社会に参加できること。
- ◇ 認知症の予防や治療に関する研究や知識を増やすこと。

上記の目標を達成するために、同計画では以下 4 点を重点領域としている。

- ◇ 共同での意思決定および参加
- ◇ 予防と保健
- ◇ 良質でコーディネートされたサービス
- ◇ 計画、スキルおよび知識開発

各領域では、長期での戦略的アプローチをまとめた後、具体的な方法を記載している。上記 URL では、ノルウェー語での計画全文へのリンクがはられている。

● **米国:Promoting Alzheimer’s Awareness to Prevent Elder Abuse Act(高齢者虐待防止に向けたアルツハイマー病の認知向上法)が成立(12/22)**

➤ <https://www.alz.org/news/2020/new-measures-to-protect-nations-most-vulnerable-be>

➤ Promoting Alzheimer’s Awareness to Prevent Elder Abuse Act(高齢者虐待防止に向けたアルツハイマー病の認知向上法)(S.3703/H.R. 6813)が12月22日に成立した。この新法では司法省に対し、警察官、検事、裁判官、医療従事者、被害者サービス提供者など、アルツハイマー病や他の認知症を有する人と接し支援を行う者を支援するツールを開発するよう義務付けている。



海外／国際機関で最近発表された／近日発表される
報告書・ガイドブックなど

● **WHO:Decade of healthy ageing Baseline report(ヘルシーエイジングの 10 年:ベースライン報告)(12/17)**

➤ <https://www.who.int/publications/m/item/decade-of-healthy-ageing-baseline-report>

- この報告書では、以下 5 点についてまとめている。
 - ◇ ヘルシーエイジングの紹介

- ◇ 現状(2020年現在)のまとめ
 - ◇ 2030年までに期待する改善点
 - ◇ 改善の加速化方法
 - ◇ 次のステップ: 次回の報告時期である2023年を見据えて
- **世界各国: Impacts of dementia friendly initiatives –Presenting a global evidence base for dementia friendly initiatives–(認知症フレンドリーの取り組み効果: 認知症フレンドリーの取り組みに向けたグローバルなエビデンスベースの発表)**
 - <https://hgpi.org/research/wdc-20201218.html> (日本語での紹介文)
 - <https://worlddementiacouncil.org/DFIs> (ここから2つの報告書をダウンロード可能)
 - 世界認知症審議会(WDC: World Dementia Council)は、日本医療政策機構およびAARPと協働し、報告書第2弾「Impacts of dementia friendly initiatives –Presenting a global evidence base for dementia friendly initiatives–」を公表した。本報告書は、2018年のWDC5周年記念サミットで合意されたプロジェクトの成果の1つである。本プロジェクトでは、世界各国で行われている「認知症フレンドリー」な政策や地域の取り組みを収集し、分析を行うことを目指した。WDCでは、2019年に世界各国の学術論文の分析や広域のアンケート調査、また先進的な国や地域の学術界や市民社会組織から意見・レポートを収集した。第1弾の報告書は2020年9月に公表済。第2弾では、第1弾を踏まえ世界各国で行われている認知症フレンドリーな取り組みを「Awareness」(認知)、「Participation」(参加)、「Support」(支援)の3つの枠組みに整理し、事例を交えながらそのポイントを紹介している。
 - **OECD: OECD Pensions Outlook 2020(OECD 年金アウトルック)(12/7)**
 - <https://www.oecd.org/tokyo/newsroom/covid-19crisis-adds-pressure-to-private-and-public-pensions-systems-says-oecd-japanese-version.htm> (日本語での紹介文)
 - <http://www.oecd.org/pensions/oecd-pensions-outlook-23137649.htm> (全文へのリンク)
 - 「OECD 年金アウトルック 2020年版」(OECD Pensions Outlook 2020)によると、パンデミックの発生以前から、人口高齢化、低成長、低収益率、低金利といった問題が、年金基金および退職準備金にのしかかっていた。世界的な健康・経済危機のショックで、経済成長、金利、収益は今後長期にわたって低い状態が続くと見られ、多くの人々は退職後に備えた貯蓄ができなくなる恐れがある。各国政府は、新型コロナウイルス対策として年金制度の持続可能性と危機対応能力を改善するために様々な措置を早急に採っている。その中には雇用保護制度や失業対策も含まれ、労働者には退職後給付の受給資格を維持できるようにし、あるいは年金基金に柔軟性がもたらされたりしている。本書では政策当局に下記の提言を行っている。
 - ◇ 人々が退職後に備えて貯蓄を継続できるようにし、市場が急落したときに資産を売ったり損失を被ったりするのを回避する。
 - ◇ 退職後所得の妥当性を評価する枠組みを設定して定期的に評価を実施し、リスクの高いグループを特定してそれぞれの不足に対処する。
 - ◇ 非正規雇用労働者が退職後のために貯蓄できるようにすることに的を絞った措置を検討する。
 - ◇ 将来の退職後所得への投資戦略を頻繁に変更することでもたらされる悪影響と金融市場の安定性に対処する。

- ◇ リスク分散措置が持続可能で加入者間の公平性を促進できるような規制枠組みを導入して、リスク軽減と年金所得をできるだけ増やすことで、あらゆる人々がリスク分散の恩恵を受けられるようにする。
 - ◇ 投資戦略、それにかかわるリスク、見返りとコストについて対象となる人々に周知し、標準化し、適応させ、専門用語や複雑な数式を避ける。
- **OECD: Promoting an Age-Inclusive Workforce: Living, Learning and Earning Longer(世代包摂的な雇用の促進:より長く生き、学習し、稼ぐ) (12/16)**
 - <https://www.oecd.org/tokyo/newsroom/employers-must-remove-barriers-to-work-for-all-generations-oecd-japanese-version.htm> (日本語での紹介文)
 - <https://www.oecd-ilibrary.org/docserver/59752153-en.pdf?expires=1610095037&id=id&accname=guest&checksum=B38A70FEA0771D7C49EC69FE10B7DF19> (全文)
 - 政府と雇用主は、コロナパンデミックで加速している働き方の変化へ適応するために、世代を超えた雇用促進に協力すべきだと、OECD の新たな報告書「Promoting an Age-Inclusive Workforce」は述べている。2050 年までに世界の先進諸国では、人口の 40%以上が 50 歳以上になるとみられる。しかし現在の雇用政策と多くの企業慣行は、労働者個人の実際の就労能力とニーズではなく年齢と密接に結びついており、現在の高齢者がかつてないほど健康で教育水準も高いにもかかわらず、彼らの能力は活用されず見過ごされている。OECD 諸国全体の生活水準は、高齢労働者の雇用が増えることで大幅に改善されるのである。雇用市場政策は、年齢に焦点を当てるのではなく、個々人の環境と条件に合わせたきめ細かなものにすべきである。それは、年齢によって差別する雇用慣行をなくし、あらゆる労働者が快適に働いて高く評価される、多様な世代を受け入れる文化を育成するということである。働き方の柔軟性向上や、キャリア再開プログラム、ライフサイクルを通じたキャリアアップや資金計画の機会提供などは、有効な政策になりえる。
 - **欧州: Intercultural dementia care: A guide to raise awareness amongst health and social care workers (多様な文化に配慮した認知症ケア: 医療および社会的ケア職員の認知向上ガイド) (12/17)**
 - <https://www.alzheimer-europe.org/News/Alzheimer-Europe/Thursday-17-December-2020-Alzheimer-Europe-launches-new-guide-targeted-at-health-and-social-care-workers-and-a-policy-briefing-on-intercultural-care-and-support> (このページ最下部よりガイド全文および政策文書をダウンロード可能)
 - Alzheimer Europe ではこの度、電子出版物 2 点「Intercultural dementia care for health and social care providers: a guide」(多様な文化に配慮した認知症ケア: 医療および社会的ケア職員の認知向上ガイド)および「Policy briefing on intercultural care and support for people with dementia and their informal carers/supporters」(認知症の人やそのインフォーマルケアラー／支援者への多様な文化に配慮したケア／支援に関する政策文書)を発表した。マイノリティで認知症の人の数は増加しているが、認知症ケアサービスを受けているマイノリティの人は、現在も少ない状況が続いている。今回発表された出版物 2 点は、このような問題へ対応するために作成されたものであり、医療や社会的ケア職員が多様な文化に配慮した認知症ケアを提供できるよう支援することを目指している。このガイドで Alzheimer Europe は、医療および社会的ケアの職員に対し以下の点を促している。

- ◇ 文化的に適切かつ理解できる形で、認知症や既存サービス・支援の情報を提供する
- ◇ 認知症は医学的な病気であり、医療や社会的ケアシステムで支援やケアを提供していることを確実に理解してもらう
- ◇ 様々なコミュニティのニーズや希望に沿った形で、既存の支援を適応させたり新たなアプローチを開発するよう検討する
- ◇ 職員とマイノリティグループの人たちとで継続的な学習や交流を行い、文化的な認識を高める

● **【コロナ関連】スウェーデン:委員会報告「スウェーデンはコロナパンデミックで高齢者保護に失敗」(12/15)**

- <https://www.reuters.com/article/health-coronavirus-sweden-commission/sweden-failed-to-protect-elderly-in-covid-pandemic-commission-finds-idUSKBN28P1PP>
- <https://ltccovid.org/2020/12/16/report-of-the-swedish-corona-commission-on-care-of-older-people-during-the-pandemic/>
- <https://coronakommissionen.com/wp-content/uploads/2020/12/summary.pdf> (報告書英語版要約)
- 12月15日に発表された公式委員会の中間報告では、スウェーデンにおける高齢者ケアの構造的な欠陥と政府や関連機関の対策不足が相まって、同国のナースングホームにおける多数の死者発生につながったという結果が示された。スウェーデンのコロナ対策は国際的に際立っており、ロックダウンやマスク着用は行わず、学校や飲食店などもほとんど閉鎖せず、国民へソーシャルディスタンスや衛生面での配慮を呼びかけるものであった。春に発表されたこの戦略は、高齢者への保護策と対になっていたが、死者は特にナースングホームで増え続け、公式委員会が任命されて対応を評価することとなった。委員会としては、政府や自治体、民間などが役割を分担する既存の高齢者ケアシステムの構造的な問題が多く、死者発生につながったが、政府が最終的に責任を持つべきだ、との見解を示している。委員会ではまた、高齢者ケアスタッフの教育や質に関する問題も指摘しているほか、政府の高齢者保護策が遅すぎ不十分であったと述べている。同国でのコロナ関連死は約7,700件だが、その半数近くがナースングホームで発生している。

● **【コロナ関連】オーストラリア:高齢者ケアの質と安全性に関する王立委員会の報告に関するオーストラリア政府の進捗報告(11/30)**

- <https://www.health.gov.au/resources/publications/australian-government-implementation-progress-report-on-the-royal-commission-into-aged-care-quality-and-safety-report-aged-care-and-covid-19-a-special-report>
- https://www.health.gov.au/sites/default/files/documents/2020/11/australian-government-implementation-progress-report-on-the-royal-commission-into-aged-care-quality-and-safety-report-aged-care-and-covid-19-a-special-report_0.pdf (全文)
- 王立委員会では2020年10月に、COVID-19が高齢者ケアに及ぼす影響に関する特別報告を発表し(訳注:10/1に発表された**特別報告(※)**のことかと思われます)6点の提言を行った。この報告を受けてオーストラリア政府は11月30日、それぞれの提言に対応した進捗状況をまとめた報告書を発表した。すべての提言で取り組みは進行中または完了済みであり、様々な施策の進捗状況が報告されている。

(※)特別報告のサイト

<https://agedcare.royalcommission.gov.au/publications/aged-care-and-covid-19-special-report>

- **オーストラリア:介護サービスに関するガイドライン 3 点の更新版発表**
 - My Aged Care Process Overview – Commonwealth Home Support Programme (CHSP)(My Aged Care プロセスの概要:連邦在宅支援プログラム) (2018年3月発表、2020年12月更新)
 - ◇ <https://www.health.gov.au/resources/publications/my-aged-care-process-overview-commonwealth-home-support-programme-chsp>
 - ◇ 山田ノート:上記 URL からダウンロード可能な円形の図は、数年前に中島さん関係で和訳した記憶がうっすらとあるのですが、実際に訳したファイルを見つけられませんでした。誤解していたら申し訳ありません。
 - Home Care Packages Program Operational Manual: A Guide for Home Care Providers(在宅ケアパッケージプログラム運営マニュアル:在宅ケア事業者向けガイド) (2020年3月発表、2021年1月更新)
 - ◇ <https://www.health.gov.au/resources/publications/home-care-packages-program-operational-manual-a-guide-for-home-care-providers>
 - Short-Term Restorative Care Programme Manual(短期回復ケアプログラムマニュアル) (2017年11月発表、2020年12月更新)
 - ◇ <https://www.health.gov.au/resources/publications/short-term-restorative-care-programme-manual>

- **オーストラリア:Experimental Estimates of the Prevalence of Elder Abuse in Australian Aged Care Facilities(オーストラリアの高齢者介護施設における高齢者虐待の発生率に関する実験的推計) (12/21、王立委員会研究論文 17)**
 - <https://agedcare.royalcommission.gov.au/news-and-media/elder-abuse-australian-aged-care-facilities>
 - <https://agedcare.royalcommission.gov.au/sites/default/files/2020-12/research-paper-17-elder-abuse-prevalence-aged-care-facilities.pdf> (全文)
 - 王立委員会による実験的な推計では、オーストラリアの介護施設で入居者の約 39.2%が、何らかの虐待やネグレクトを経験しているという結果が示された。最も多いのはネグレクト(入居者の30.8%)であり、心理的虐待(22.6%)と身体的虐待(5%)が続くが、高齢者虐待には経済的、社会的、性的なものも含まれる。各種虐待の発生率に関する他国の調査結果は様々である。

- **ニュージーランド:Becoming an Age Friendly Business Implementation Guide(エイジフレンドリーな事業になるための実施ガイド) (12/24)**
 - <https://www.superseniors.msd.govt.nz/news-events/news/2020/becoming-an-age-friendly-business-implementation-guide.html>
 - <https://www.superseniors.msd.govt.nz/documents/age-friendly-communities/business/becoming-an-age-friendly-business-implementation-guide-pdf-version.pdf> (全文)
 - ニュージーランド政府が発表したこのガイドでは、エイジフレンドリーな事業プログラムの展開に関心

を持つ企業、サービスまたは地域を対象としたものであり、エイジフレンドリーな事業の概要のほか、実現に向けた4つのステップ、枠組み、資料などを紹介している。